

中学校美術科採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 【例】	採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	平面作品 形や色彩を全体と部分との関係でとらえさせるなど、効果的な構成・構図や配色などの創造的な画面づくりをさせること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	各 5 × 2	2 8
		立体作品 全体と部分とのバランス、量感や動きなどが醸し出す空間性、雰囲気について考えさせること。			
	2	生徒一人一人の個性やそれまでの体験などを生かして、感動したこと、発見したことなどを基に、スケッチや手軽に扱える材料などを用いて、徐々にその思いを膨らませるなどして、構想を深めさせていくこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	6	
2	1	発想、構想、計画、制作から完成に至る過程での話し合い。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	各 6 × 2	2 7
		学級全体あるいは小グループの活動などの中で互いの個性を生かした分担をして活動すること。			
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・墨の濃淡。 ・線の強弱。 ・ぼかしやにじみ、かすれ。 ・大胆な画面構成と荒々しい皴法による表現。 ・筆で点を打つように草木や苔を描いたりリズム感のある表現。 ・後から濃墨で輪郭をとる表現。 ・ごつごつと力感溢れるアクセントの強い筆致。 ・強い輪郭線で描かれた岩の重なりによる、奥行のある空間。 ・人物と巨大な崖が対比をなし、楼閣が画全体に安定感を加えていること。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	各 5 × 3	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・描かれている場所はどのようなところか、それは絵のどのような様子から思ったのかを考えさせる。 ・季節や空気感がどのように表現されているのかを考えさせる。 ・描かれているものの表情、ポーズ、画面全体の構図や墨の濃淡などから、どのような場面か考えさせる。 ・複数の水墨画の描き方の違いを比較させる。 ・実際に筆を手に取り、線をなぞる体験を通じて、水墨画の美しさや難しさ、表現技法について読み取らせる。 	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	各 6 × 2	
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・中心となるものや表す形や色彩などを整理し、単純化したり省略したり強調したりして創造的な構成を考えさせる。 ・材料を生かして、表現の意図に合うテクスチャーを工夫させる。 ・発想の手がかりとして、言葉や音などを考えさせ、そこから塊や量に注目したり、自由なイメージをふくらませたりさせる。 ・単純な幾何形体の組み合わせや分割などを工夫させる。 ・身近なものや文字を変形させる。 ・自然現象からイメージを膨らませる。 ・頭に思い浮かんだ抽象形体をアイデアスケッチさせる。 ・粘土を練ったり、紙を折り曲げたり、紐を結んだりすることで、立体的なイメージをもたせる。 ・素材や廃材を自由に選択しながら、自分のイメージを探らせる。 ・素材の組み合わせ方や、接合、着色、装飾の方法を検討しながらイメージを深めさせる。 	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていないもよい。	各 7 × 3	2 1

中学校美術科採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点		
4	1	<ul style="list-style-type: none"> 遠くからでも分かりやすいこと。 歴史や文化、自然、人工物などをモチーフにしていること。 形や色彩だけで誰にでもその情報が伝わること。 伝えたい内容が印象強く、独自性のあるデザインで表されていること。 単純な色や形を用いて、視覚的に分かりやすく表していること。 	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 2	28
	a	隣り合っている色の関係がはっきりせず、調和を欠く場合、その間に他の色を配置して、調和を図る方法。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 6 × 3	
	b	左右対称のつりあいにとれた配置や、点対称などを含む広い意味での対称性をもった形やその配置。			
c	金網の上から、濃いめの絵の具をつけたブラシでこすると、霧状になった絵の具で画面にぼかし模様ができる技法。				
5	次	学習活動	指導上の留意事項	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	24
	1	課題の把握と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を深めるためにシュルレアリスムの作品から物語を考えたり、グループで主題を探ってみたりさせる。 		
	2	表現の発想・構想	<ul style="list-style-type: none"> 心の世界を思い付くままにスケッチしたり、文章に書いてみたりさせる。 スケッチやことば、文章を基に絵の構成を考えさせる。 		
	3	制作	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具を選択できるように、教室環境を整備する。 制作途中で生徒の作品を何点か取り上げて、効果的な表現方法を紹介する。 ワークシートなどを準備し、自分の作品を振り返らせる。 		
4	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> 作品を展示してお互いの作品を鑑賞し、話し合わせるなどしながら、理解を深めさせる。 			
6	<p>次の工程を踏まえて、図と文で分かりやすくかいていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ひもやクランプ、万力などで部材を固定して接着する。 外形の大きな凹凸をのこぎりや彫刻刀、小刀などで切り落とし、外形を整える。 金工やすりで削り、外形や表面を整える。 荒い目から細かい目へと紙やすり（80～240番）で磨く。 		各 6 × 4	24	
7	<p>次の点に留意して描いていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形を正確にとらえて表現していること。 鉛筆の濃淡によって立体感を表現していること。 鉛筆の濃淡によって質感を表現していること。 画面にバランスよく構成していること。 		各 12 × 4	48	